

# 第 3 回乳がん患者サロン勉強会

## 再発乳がんの治療

### ～局所療法の可能性を考える～

近年、“乳がんは全身病”という考え方が一般にも根付き、局所療法である手術・放射線だけでなく、全身療法である薬物療法がほぼ必須になっています。再発の場合には基本的に全身療法が優先しますが、一方で肝動注、γナイフなど、新しい局所療法も開発されています。

今回は、あえて再発の局所治療を取り上げ、QOLの観点も含めてどんなメリット・デメリットがあるのか、どのように全身療法と局所療法を組み合わせるか、あるいは使い分けるかを勉強します。再発治療における局所療法の可能性について、一緒に考えてみましょう。

■ 日 時 11月6日(土) 午後1時半～4時(午後1時開場)

■ 会 場 東京共済病院 管理棟3階 講堂

■ 講 師 特別医療法人博愛会副理事長 相良 吉昭 先生

■ 申 込 み 東京共済病院 がん相談支援センター 大沢かおり までお電話か  
メールでお名前をお知らせください。

直通電話：03-5794-7390

Eメール：gansoudan@tkh.meguro.tokyo.jp

= 講師ご紹介 =

相良 吉昭(さがら よしあき)先生

\*\*\*\*\*

1969年生まれ 特別医療法人博愛会 副理事長

【診療科】乳腺科、放射線科

1997年 川崎医科大学卒業、相良病院入職

1998年 鹿児島大学医学部放射線科入局

2001年 相良病院乳腺・放射線科担当

2003年 女性専用クリニックさがらクリニック21開設

2007年 乳癌に専門特化した画像診断センターと放射線治療センターを有するさがらパー  
スクリニックを開設、マンモグラフィ遠隔診断支援システム開始

2009年 僻地診療支援室の開設および甕島診療所での僻地医療開始

～相良先生からのメッセージ～

乳がんの初期治療は科学的根拠に基づいて治療されるようになりましたが、再発治療となると情報が氾濫し、「最先端治療」と称して様々な治療が存在し患者はその選択に迷ってしまいます。今回は常に最善の治療を選択できるよう、「氾濫した情報」の1つ1つを検証したいと思います。